

木材需給動向について

令和2年6月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格

①直近の価格推移（原木価格・共販所）

ア) スギ

イ) ヒノキ

②過去の価格推移との比較

(2) 製品価格の推移・動向

2 生産等の動向

(1) 原木生産の動向

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

①製材

②合板

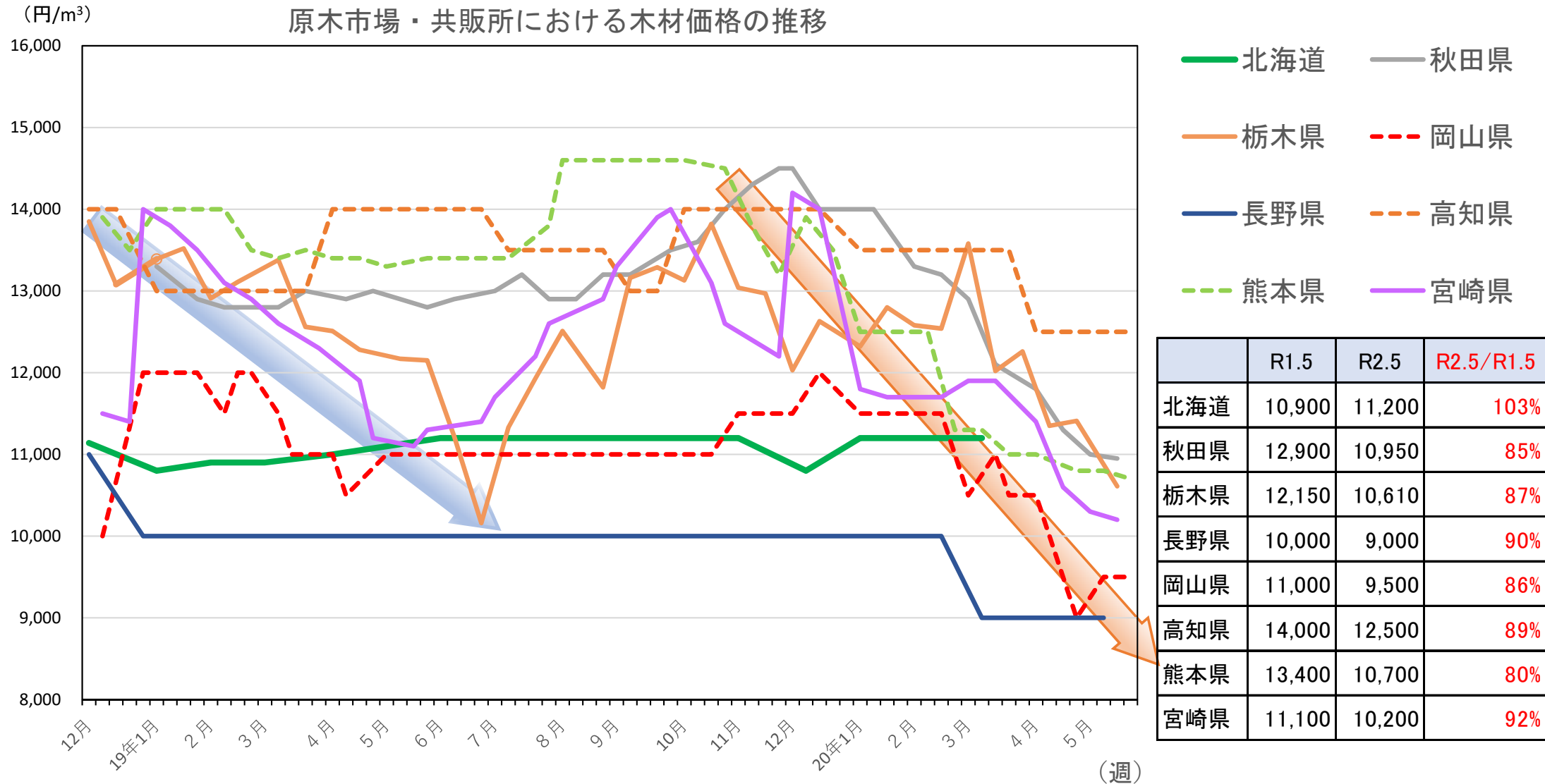
③チップ

3 住宅着工戸数の推移

1 価格の動向（1）原木価格 ①直近の価格推移

ア) スギ φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きく急となっている。
- ・ 本年5月のスギ原木価格は、**対前年比 8～20%の下落**。



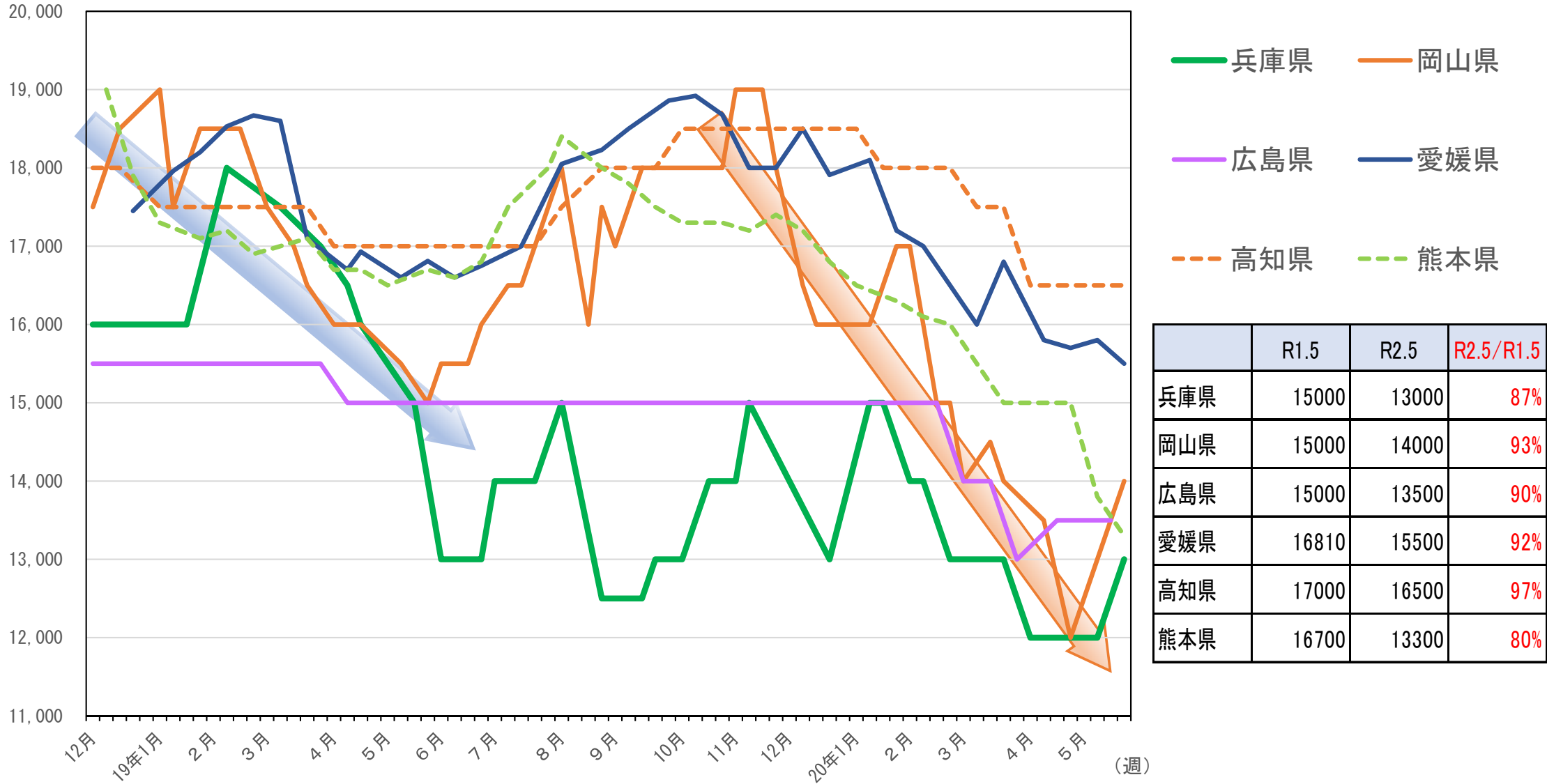
注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65～4mの中目原木。
 注2：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。
 資料：林野庁木材産業課調べ

イ) ヒノキ φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ヒノキにおいてもスギと同様に例年以上の下落幅となっている（兵庫県を除く）。
- ・本年5月のヒノキ原木価格は、**対前年比3~20%の下落**。

(円/m³)

原木市場・共販所における木材価格の推移



注：都道府県が選定した特定の原木価格・共販所の価格。

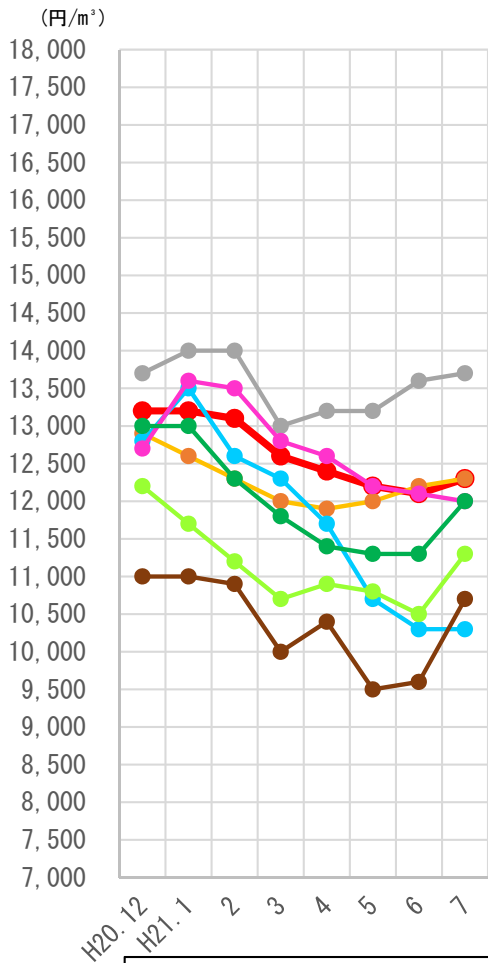
資料：林野庁木材産業課調べ

②過去の価格推移との比較 (スギ中丸太φ24~28cm、3.65~4.0m)

過去に原木価格の下落幅が大きかった時期と比較すると、

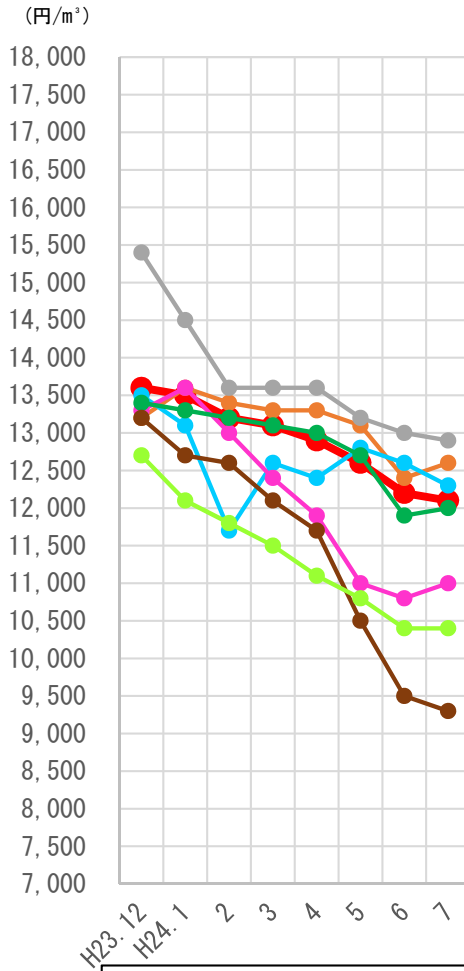
- ・ 為替の影響で近年、価格は高く推移。
- ・ 大分県、宮崎県など生産量の多い地域ほど下落幅が大きい傾向。
- ・ 本年6~7月にかけて価格の底入れがあるかどうかを見極める必要。

リーマンショック (H21)



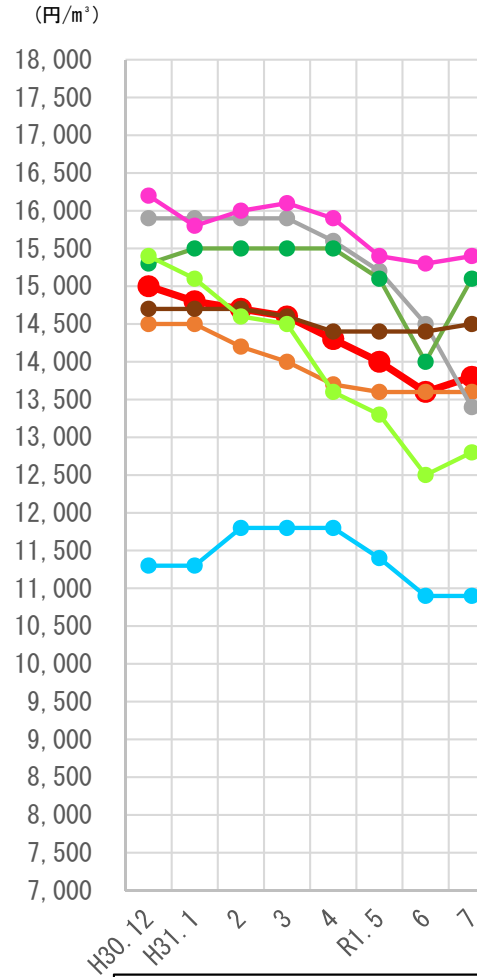
(為替) 90~99円/ドル

欧州円高 (H24)



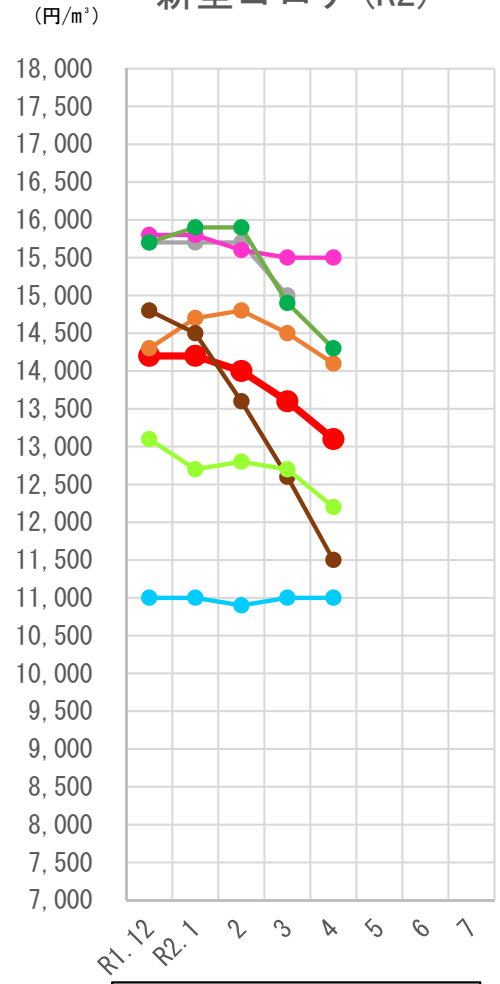
77~82円/ドル

通常時 (R1)



108~112円/ドル

新型コロナ (R2)



107~110円/ドル

● 全国 ● 秋田県 ● 栃木県 ● 岡山県 ● 愛媛県 ● 熊本県 ● 大分県 ● 宮崎県

(2) 製品価格の推移・動向

- ・ 製品価格は原木価格と異なり季節変動はないにもかかわらず、本年に入り**価格の下落**が見られる。
- ・ 4月に木材加工工場に対して行った調査では、**4割の工場が価格が下落している**との認識。
- ・ 住宅の着工動向によっては、今後も下落の傾向が続く可能性。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	前月比
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	0
首都圏	54,000	→ 53,000	53,000	53,000	0
大阪	55,000	55,000	→ 54,000	54,000	0
名古屋	65,000	65,000	65,000	→ 60,000	▲ 5000
九州	52,000	→ 50,000	50,000	→ 48,000	▲ 2000
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	0

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	前月比
首都圏	66,000	→ 65,000	65,000	65,000	0
大阪	64,000	64,000	→ 63,000	63,000	0
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	0
九州	62,000	62,000	→ 61,000	61,000	0
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	0

※九州のみ120×120×3000mm

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

	3月	4月	5月	6月	前月比
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	0
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	0
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	0
広島	1,900	→ 1,880	1,880	1,880	0

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

	3月	4月	5月	6月	前月比
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	0
首都圏	1,050	→ 1,030	1,030	→ 1,010	▲ 20
大阪	1,050	→ 1,010	→ 1,000	→ 990	▲ 10
名古屋	1,050	→ 1,020	1,020	→ 1,000	▲ 20
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	0
広島	1,070	→ 1,050	→ 1,030	1,030	0

2 生産等の動向

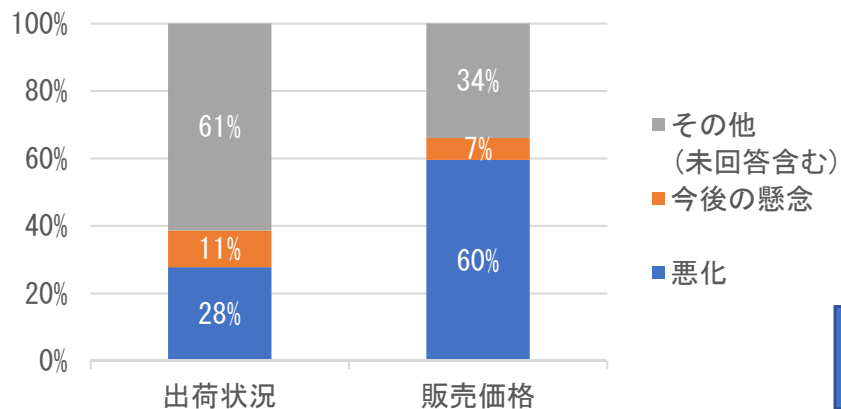
(1) 原木生産の動向

4月に素材生産事業者を対象に調査(回答数228)を行ったところ、

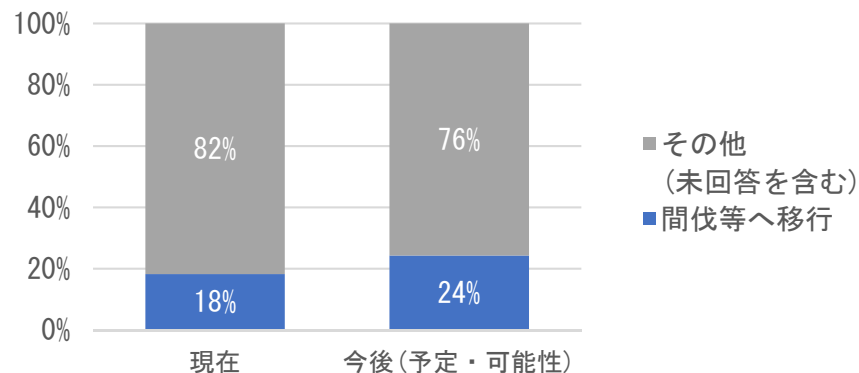
- ・ 4割の事業者が既に**出荷状況が悪化**していると回答。
- ・ 6割の事業者が既に**販売価格が下げられている**と回答。
- ・ このため、**2割の事業者が既に主伐から間伐等の作業に移行**しており、この傾向は増加すると見込まれる。

○ 4月時点


■ 出荷先の状況



■ 作業の移行状況



○ 5月以降

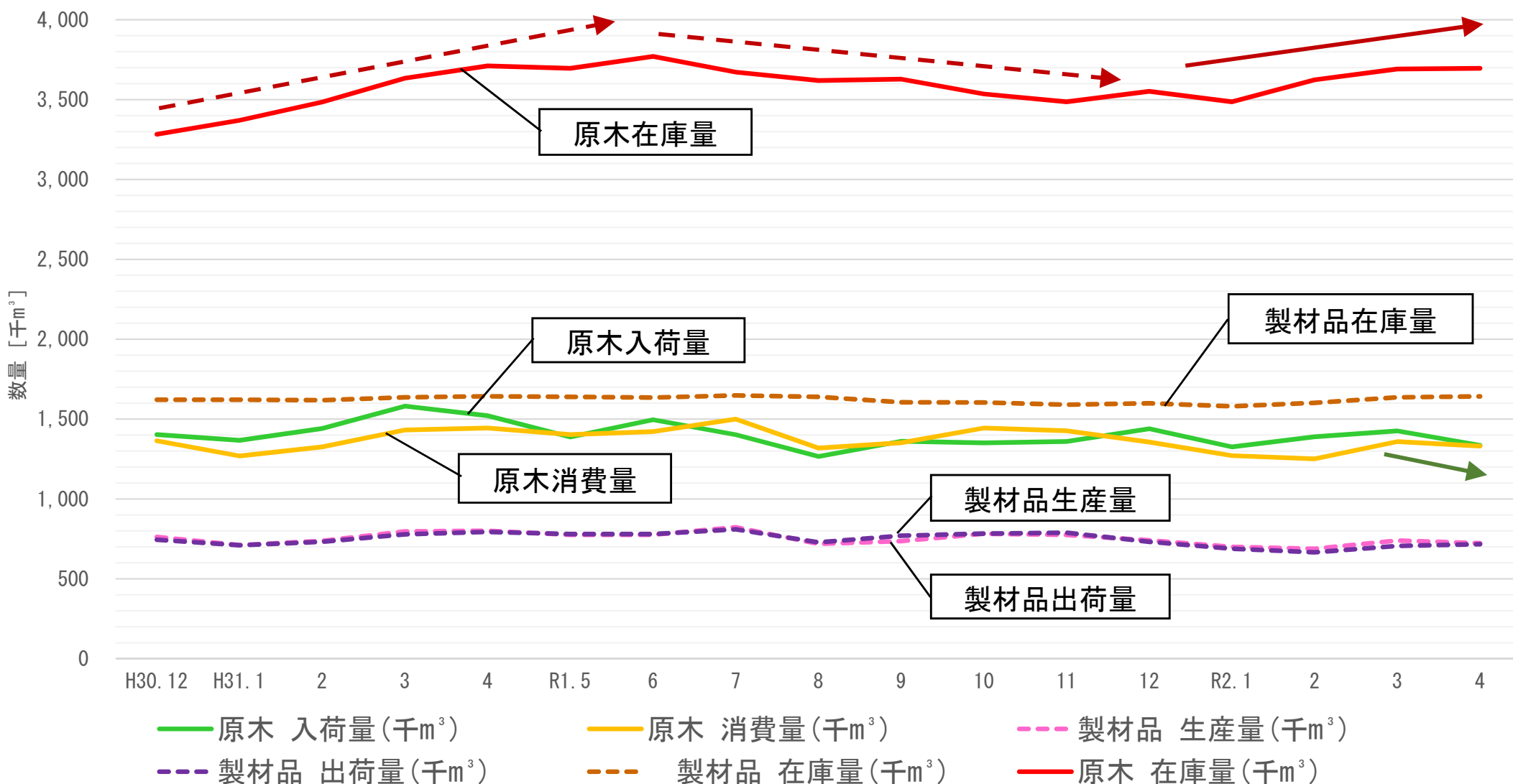
- 
- 原木の受入制限、価格低下により**採算性が悪化**
 - 作業種の変更により雇用を確保

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

① 製材

「製材統計」によると、

- ・ 製材品の生産量、出荷量、在庫量は年間を通じて概ね変化はない（グラフの破線部分）。
- ・ 一方、原木の入荷量、消費量は2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向。
- ・ 現在、**原木の入荷量・消費量は減少のトレンド**、**在庫量は増加トレンド**にある。



資料：農林水産省「製材統計」

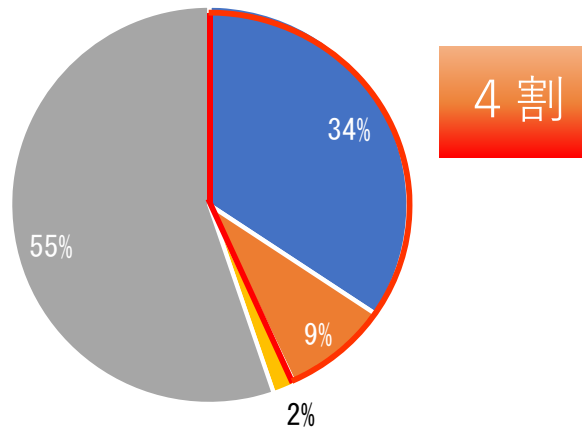
①製材（つづき）

- ・一方、4月に大手の製材工場を対象に調査(回答数219)を行ったところ、**4割の工場で既に減産を実施**。
- ・このため、**2割の工場が既に原木の入荷量を抑制**。
- ・5月以降、**製品の減産を実施する工場数や減産割合は増加**しており、**原木の入荷抑制も増加**している。

○ 4月時点

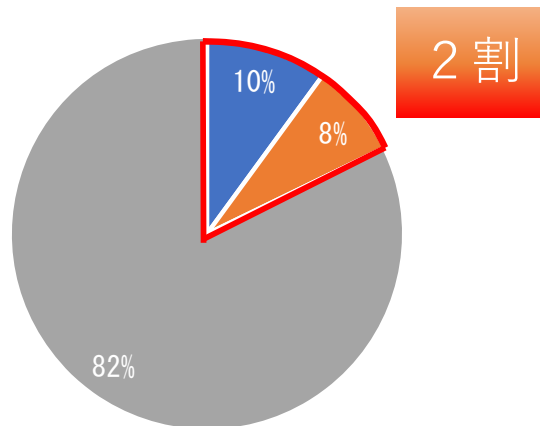
■ 製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし (未回答含む)



■ 原木の入荷状況

- 減少 20%未満
- 減少 20%以上
- 無



○ 5月以降

■ 製品の生産状況

- 減産を実施する**工場数が増加**
- 減産割合を**引き上げる工場が見られる**

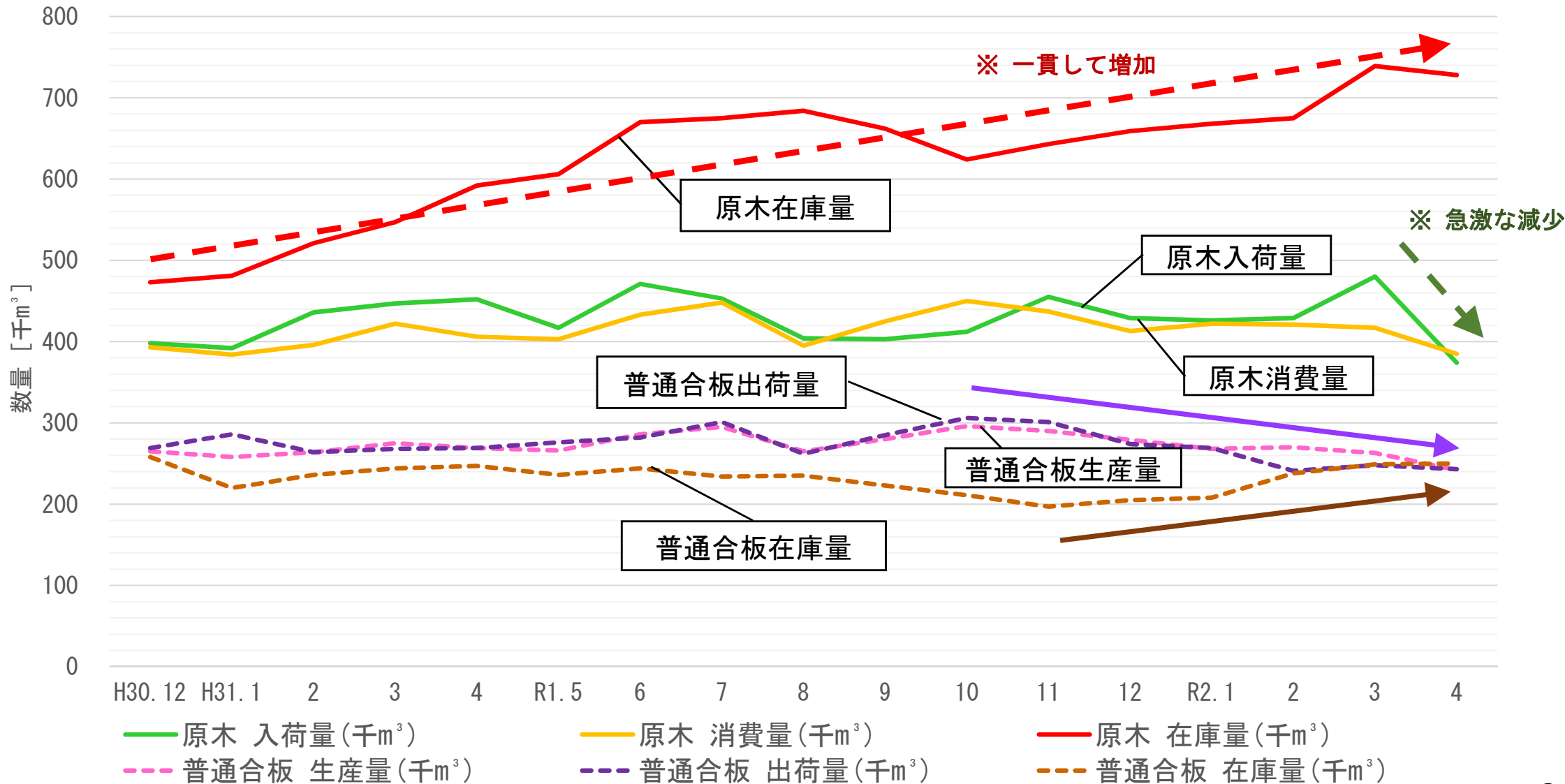
■ 原木の入荷状況

- 原木の入荷を**抑制する工場が増加**

②合板

「合板統計」によると、

- ・合板の生産量、出荷量は昨年10月以降、減少傾向にある一方、在庫量は増加傾向（グラフ下部破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返しているが、4月の入荷量は急激に減少。
- ・原木の在庫量は長期にわたり一貫して増加のトレンドにある。



資料：農林水産省「合板統計」

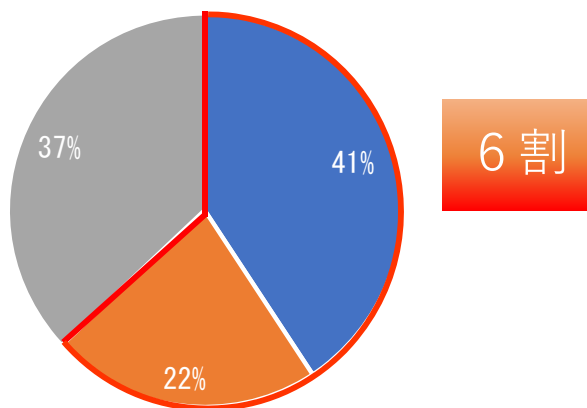
②合板（つづき）

- ・一方、4月に合板工場を対象に調査（回答数27）を行ったところ、**6割**の工場で**既に減産**を実施。
- ・**4割**の工場で既に**原木の入荷を抑制**。
- ・5月以降も多くの工場が**減産を継続**。また、**原木の入荷制限を継続**するとともに**減少割合の引き上げ**。

○ 4月時点

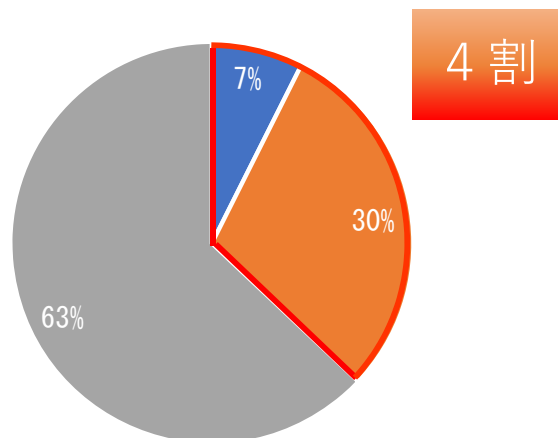
■製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増減なし
(未回答含む)



■原木の入荷状況

- 減少 20%未満
- 減少 20%以上
- 無



○ 5月以降

■製品の生産状況

- 多くの工場で**減産を継続**。

■原木の入荷状況

- 多くの工場で引き続き、**入荷制限を継続**。
- **入荷減少割合を、さらに引き上げる**工場も見られる。

③チップ

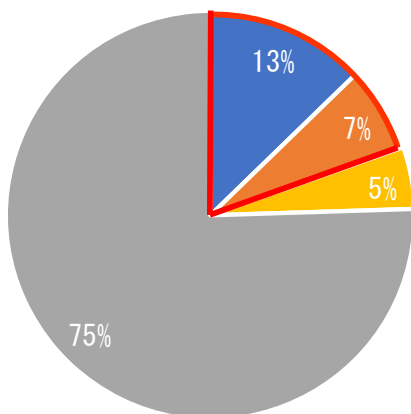
4月に大手の木材チップ工場を対象に調査(回答数102)を行ったところ、

- ・ **2割**の工場が**減産**を実施。
- ・ 原木の受入制限を行っている工場は、1割未満。
- ・ 5月以降も**多くの工場が通常の生産を継続**。減産を実施している工場は少ない。

○ 4月時点

■製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし (未回答含む)



2割



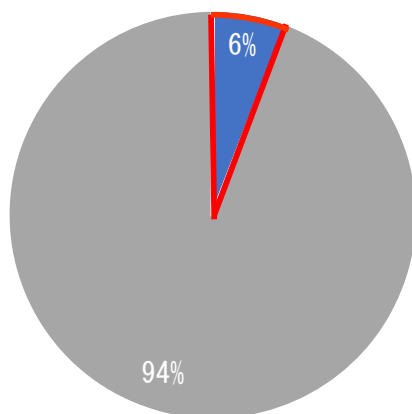
○ 5月以降

■製品の生産状況

- 多くの工場が**通常の生産を継続**。
- **製紙工場の一部**において、チップの**受入制限**が見られる。

■原木の入荷状況

- 減少 有
- 減少 無

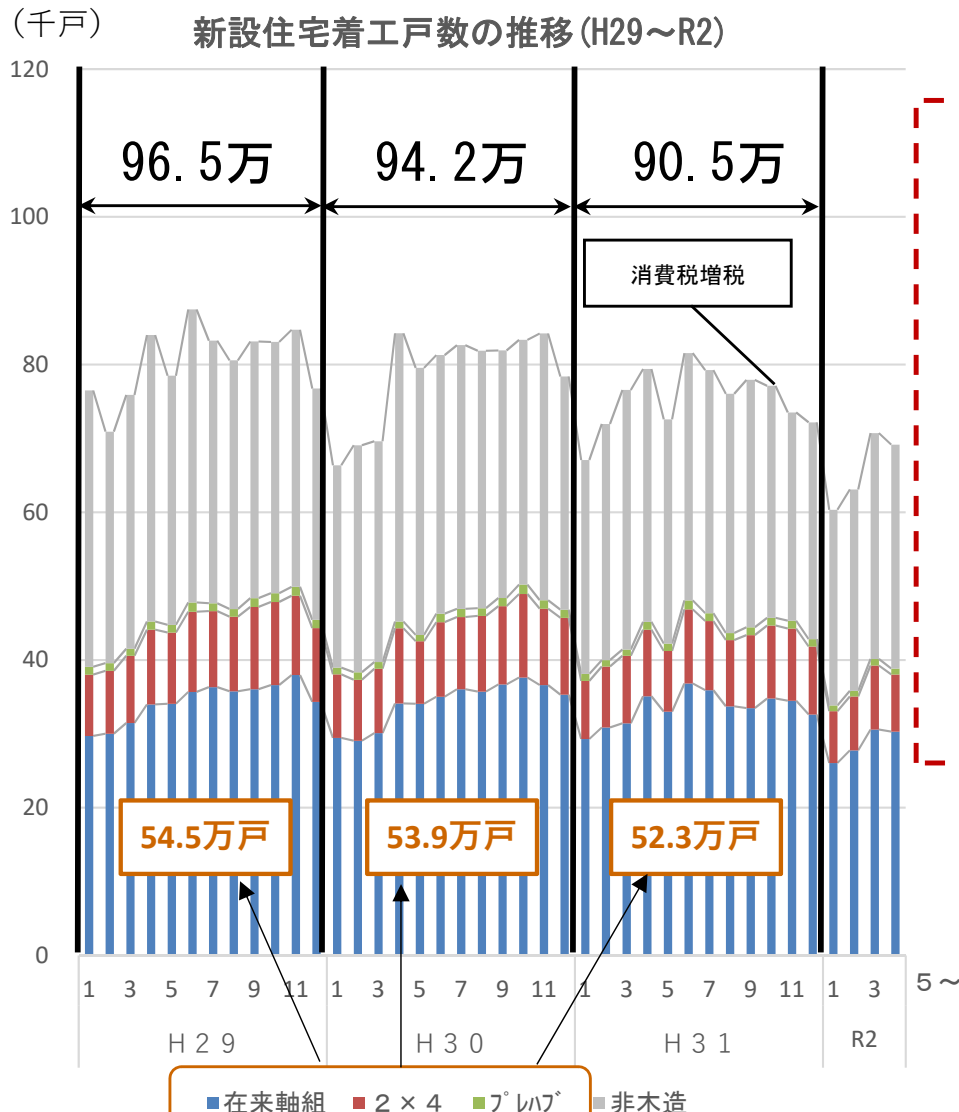
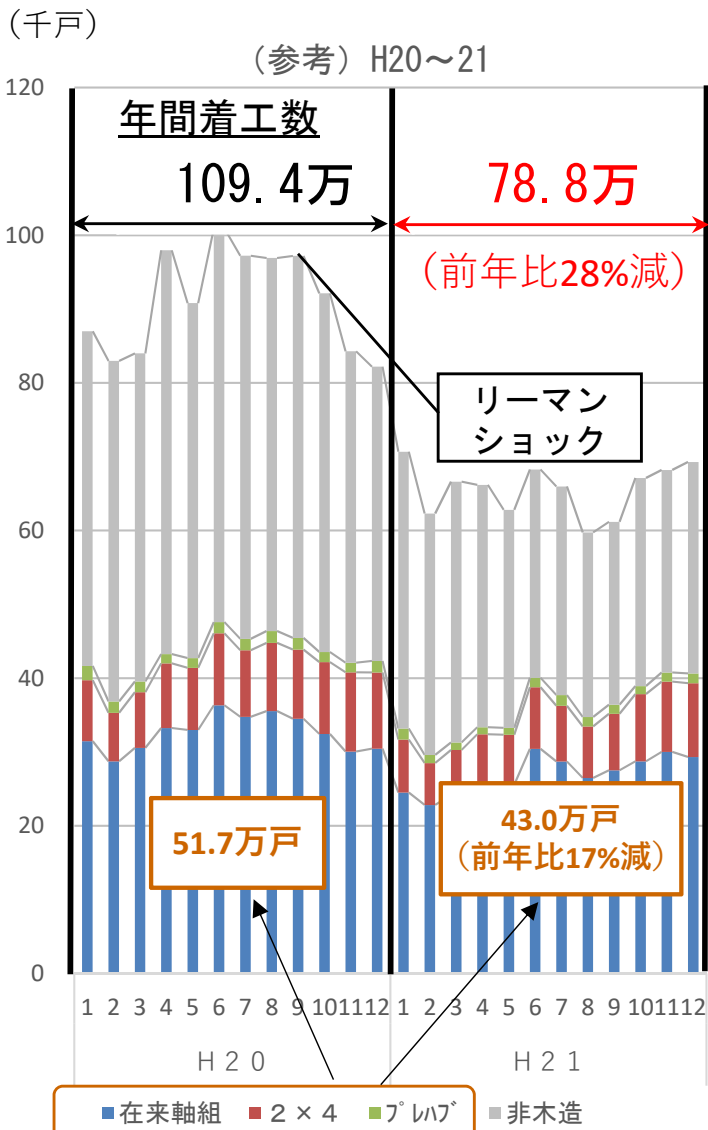


■原木の入荷状況

- 一部の工場では受入制限を継続。

3 住宅着工戸数の推移 (平成20年1月～令和2年4月)

- ・ 昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、**木造住宅は52.3万戸 (57.8%)**。
- ・ **令和2年度1～4月**の木造住宅着工戸数は、**14.9万戸 (前年比9.7%減)**。
- ・ 緊急事態宣言が発令された4月以降、住宅メーカー等では営業時間を短縮、訪問打合せを中止しており、住宅展示場の来場者が激減するなど、**大手・注文住宅の受注機会が大幅減少**。今後の着工の**動向を注視する必要**。



今後の動向を注視する必要！

令和2年1～4月期
住宅着工戸数

総計 26.3万戸
(前年比10.7%減)

非木造 11.5万戸
(前年比12.0%減)

木質プレハブ 0.3万戸
(前年比13.9%減)

2×4 3.1万戸
(前年比10.5%減)

在来木造 11.5万戸
(前年比9.4%減)

木造14.9万戸
(前年比9.7%減) 12

木造住宅